

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第208期）

福井県勝山市 商工文化課 石橋 慈

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

令和7年5月27日から8月7日までの73日間において、私は自治大学校第2部課程第208期の研修を受講しました。全国各地から集まった仲間と共に学んだ日々は、知識や技術の習得だけではなく、人とのつながりの温かさを実感する貴重な時間でした。一方で、仲間の考え方の深さや発想の豊かさに触れるたび、自分の未熟さにも気付かされ、「もっと成長したい」という思いが強まっていきました。

2 法制集中研修での学び

法制集中研修では、憲法、行政法、民法といった地方自治の基盤を支える法制度について体系的に学びました。

特に憲法では、定住外国人に地方参政権を付与する正当性と反対意見の双方について議論し、法の理念と住民生活の現実との間にある大きな課題を実感しました。

また、このほか地方公務員制度では服務規律の根拠や会計年度任用職員の業務の性質を整理しました。地方税財政制度では財政指標をふまえながら政策の「実現可能性」を考察し、類似団体との比較を行いました。日常業務では得難い幅広い視点に触れることができたことは、大きな成果でした。

3 講義での学び

著名な講師の方々から自治体が直面するテーマに沿った講義が行われ、多くの先進事例や最新の国の動向を知ることができま

した。

「e-Stat によるデータ分析演習」では、政府統計の総合窓口である e-Stat を用いて、人口構造や高齢化の進展などのデータを扱う面白さを実感するとともに、業務での活用イメージが具体的に湧きました。

「リーダーシップとマネジメント」の講義では、人の動かし方、動機付け、ファシリテーションについて学び、大切なのは「チームでベクトルの方向を合わせ、同じ目的地を見据えること」であり、そのために必要なリーダーシップの在り方を確認しました。このことは、自分自身のこれまでの行動を振り返り、「どんなリーダーでありたいか」を改めて考えるきっかけとなりました。

防災の講義では、災害対応の現場で直面する判断の難しさや、自治体職員が果たす役割の大きさについて学びました。事例を通して、住民の命に直結する決断が求められる場面を想像すると、身が引き締まる思いがしました。

さらに模擬講義演習では、自分の考えを整理した上で、相手に伝わる話し方や資料作成を行うことの難しさを実感しました。講師や仲間からのアドバイスで、声に抑揚を付けたり、構成を工夫したりすることで伝わり方が大きく変わることが分かりました。また、自分の話し方の癖にも気付くことができました。

4 政策立案演習での学び

政策立案演習では、千葉県成田市を対象に、「多文化共生しながら多様な世代が共存し循環する～成田ニュータウンの将来のために～」をテーマに政策提言を行いました。

現地調査や担当の方との意見交換を重ねる中で、地域の生の声を聞くことができましたが、その声を政策へどのように反映するかという難しさに直面しました。新たな多文化共生推進体制の整備や多文化共生リーダー・多文化共生パートナーの育成、「やさしい日本語教室」の開催など、共生の仕組みづくりを提言としてまとめる過程では、仲間と議論を重ねながら、限られた時間の中での合意形成や調整の難しさ、そしてその先にある大きなやりがいを実感しました。

5 全国の仲間との交流

研修を通じて出会えた全国の仲間は、私にとってかけがえのない宝物です。自分たちの地域を良くしていきたいという同じ思いを持つ仲間の存在は、日々の励みとなりました。

多くの時間を過ごした洗心寮7階談話室では、仕事の話から将来のことまで語り合い、まるで大家族のような温かい雰囲気でした。休日の東京散策でもお互いに冗談を言い合いながら歩いたことは、楽しい思い出です。かわいい妹のような存在、美味しい料理を振舞ってくれるシェフ、イベント企画のプロ、場を明るく照らすムードメーカー、休日はじっとしていない行動派、悩んだときに的確なアドバイスをくれる仲間、おしゃれなお店に詳しい女子会メンバー……。卒業式の日には涙がこぼれたのは、そのつながりの深さゆえだったと思います。



(多くの時間を過ごした7階談話室)

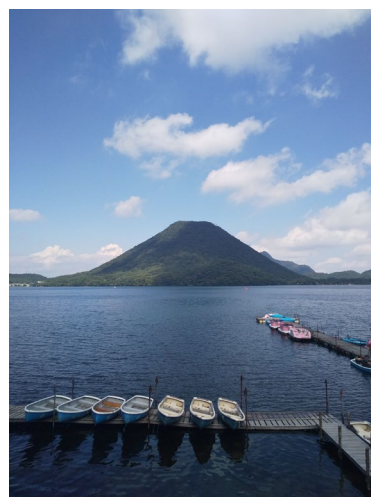
6 家族と職場への感謝

長期研修を安心して受講できたのは、家族と職場の支えがあったからです。夫と息子には日々の生活を支え、私の挑戦を後押ししてもらいました。職場の上司や同僚には業務調整や励ましの言葉をいただきました。今後は研修で得た学びを職場に還元し、成長した姿で恩返ししていきたいと思っています。

7 今後に向けて

この2か月半で得たものは知識や技術以上に、かけがえのない仲間との出会いと、自分の仕事への向き合い方を見直すきっかけでした。

行政の仕事は単なる日常業務ではなく、住民の生活に寄り添いながら地域の未来をつくる創造の仕事であることを改めて実感しました。担当する観光政策でも、「誰のために」「どのような価値を生むのか」を常に問い続け、課題解決に向き合っていきたいと思います。自治大学校で得た経験を糧に、地域に貢献できる職員となれるよう、これからも努力を重ねていきます。



(卒業旅行で訪れた伊香保温泉。榛名山がきれいに見えました。)